

論文要旨

氏名	大楠 弘通
タイトル (日英併記)	Comparison of submental muscle stiffness between patients with obstructive sleep apnea and healthy participants (閉塞性睡眠時無呼吸患者および正常者における顎下部筋群の硬度に関する研究)
論文の要旨(日本語で記載)	
<p>閉塞性睡眠時無呼吸(obstructive sleep apnea: OSA)患者と対照被検者に対し, OSAに関連が深いと考えられる顎下部領域の筋硬度について押し込み型筋硬度計を用いて測定を行い, その特性を比較検討した.</p> <p>OSA 群 16 名(男性 8 名, 女性 8 名, 51.8 ± 13.83 歳)および対照群 14 名(男性 7 人, 女性 7 人, 50.1 ± 6.37 歳)に対し, 習慣性閉口位(habitual occlusal position: HOP), 下顎最前方位(maximum mandibular protrusive position: MPP), 舌前突位(tongue protrusive position: TPP)の 3 顎位について測定を行い, 群内, 群間, および男女間の筋硬度について比較検討するとともに, 無呼吸低呼吸指数(Apnea hypopnea index: AHI)と HOP に対する MPP および TPP の変化率(MPP/HOP および TPP/HOP)との関係进行评估した.</p> <p>その結果, 両群とも MPP および TPP は HOP よりも筋硬度が有意に高く($p < 0.05$), 女性では両群とも同様の傾向が見られたが, 男性では, 対照群では MPP が, OSA 群では TPP が HOP よりも有意に高かった($p < 0.05$). 各顎位における筋硬度は, 両群間で男性よりも女性の方が高くなる傾向が認められた. また, TPP/HOP と AHI には有意な負の相関が認められた.</p> <p>以上の結果より, 男性において対照群では MPP が, OSA 群では TPP が HOP よりも有意に高く, 男性 OSA 患者では舌と下顎を同時に突出させることで, 顎下部筋群の硬度変化をもたらすことが示唆された. TPP/HOP と AHI の間には有意な負の相関関係があり, AHI が高い重症 OSA 患者ほど舌前突時の顎下部筋群の硬度変化率が小さくなることがわかった.</p>	